

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ジョイ村松
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	静岡県清水区村松原1-7-16
記入者名 (管理者)	柴田 啓子
記入日	平成19年9月17日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“その人らしく 安心した暮らし なじみの暮らし”を運営理念に掲げ、地域と一体となったサービスを提供するように取り組んでいる。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時にオリエンテーションにて理念の把握に努めている。理念に基づいて作成されたサービス計画を元に、ケアに取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域住民に声をかけ、定期的に運営推進会議に参加していただいている。そこで普段の活動や理念について説明を行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所への散歩は日常的に行っており、その際に会った方には挨拶をしたり声をかけていただいている。行事がある時には近所で駐車場を貸して頂き、一緒に行事に参加していただいたりもしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会に入会することはできないが、近隣の方とは交流させて頂き、夏には近所の神社で行われている祭りに顔を出し、踊りに参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生委員と連絡をとり協力し合っている。暮らしに役立つ活動に取り組むことはできていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の項目は職員全員が目を通し、回答している。評価を元にケアなどの改善を行い、実行している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、普段の生活の様子や評価などについて説明を行っている。参加者の意見も伺って、サービス提供の参考にしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて報告、連絡、相談している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会があれば参加をし、内部研修を行っている。必要があれば支援するようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会には参加をし、内部研修も行っている。正しく理解することで、お互いに注意しあえるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開催されている研修には積極的に参加させており、それに 応じた内部研修もおこなっている。資格の取得にも積極的 に支援をし、手当も用意されている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者 と交流する機会を持ち、ネットワークづ くりや勉強会、相互訪問等の活動を通じ て、サービスの質を向上させていく取り 組みをしている	地域包括センターや地区社協の会合に参加し、同業者との 情報交換をするなど、ネットワークの構築に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽 減するための工夫や環境づくりに取り組 んでいる	業務上の相談などがしやすいように、対話をする機会を設 けている。日常的に会話することで、良好な関係を保てるよ う努めている。また、社員旅行と親睦会を隔年で行うなど、 職員同士が親しくなれるような場を設けている。休日出勤や 時間外など、過酷な勤務にならないように、人員を確保して いる。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、各自が向上心を 持って働けるように努めている	各資格手当を設けており、随時昇給もしている。 研修内容に応じて、研修費用の負担をしている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っ ていること、不安なこと、求めていること 等を本人自身からよく聴く機会をつく り、受けとめる努力をしている	見学をしてもらって会話の機会を設けている。可能であれば 入居前にショートステイを利用してもらい、本人とより多く話 をする機会を作っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っ ていること、不安なこと、求めていること 等をよく聴く機会をつくり、受けとめ る努力をしている	家族構成や入居前の様子などの情報をバックグラウンド アセスメントシートに記入してもらい、本人や家族の求めて いる事を探るよう努めている。本人同様、見学や面談時に話 を聴く機会を作っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所の利用だけにこだわらず、本人の為により良い支援方法を提案している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の意志を尊重するよう、十分に意見を聞いている。見学时に他の利用者と交流する機会を作り、場合によっては食事を一緒にするなどしている。ショートステイを事前に利用してもらうことも提案している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人一人の人格を尊重し、それぞれの役割を持って、家庭的な環境の下で日常生活が送れるよう支援している。家事や会話などを通じ互いに学び、支え合い、感謝する事を忘れないようにしている。喜びや楽しみはもちろんの事、怒りや哀しみも互いに表現しあっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう心がけている。本人の暮らしぶりを報告し、出来る事を喜び合うなど、共に支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	本人が家族を、家族が本人を大切に想う気持ちを理解し、互いの気持ちをそれぞれに伝えている。以前の話詳しく聞いて理解することで、より良い関係が築けるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、家族など誰でもいつでも訪ねてくれるよう配慮している。外出やドライブの際は、本人の行きたい場所へ寄り添ったり、地元や地域の名所旧跡に行くなどしている。利用者個々の馴染みの人、場所を把握し、話題に出している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者同士を同じテーブルにしたり、職員が間に入って会話を引き出したりして、利用者同士が交流し対話を持てるように努めている。個々の能力に合わせて家事などの仕事を提供し、本人同士で協力し合える場を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要な場合は、連絡を取っている。入院で利用が終了した場合は、家族に様子を聞いたり、見舞いに行き様子を見たりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、自己決定を優先するよう努めている。本人との会話や日常生活の中から経験などを学び、さらに家族に本人の生活状況や趣味嗜好などをバックグラウンドアセスメントシートに記入してもらい、生活歴の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活や経験、出来事、希望などを話せるように言葉をかけたり、十分に話を聞くなど会話をしやすい雰囲気作りをしている。家族やケアマネージャー、利用していた事業所など関わりのある人からの情報を聞いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家族からの情報提供や、本人との会話、日常生活、健康状態を見ながら検討し、把握している。 職員が現状を共有し、変化があった場合は常に見直している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の会話や家族との対話のなかでケアのあり方などについて意見を聞いている。会議で職員個々の意見や、家族の意見を出し合い介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しをし、新たな介護計画を作成している。また、毎月の会議の中でも行っている。変化が生じた場合はもちろん、日々、職員間で現状に即した話し合いをし対応している。内容については口頭及びノートで申し送りをして共有し、家族にも報告をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し日常の様子を全て記録している。出勤時には申し送りの時間を設け、情報の確実な伝達と共有を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じて、併設のデイサービスでマシンによる機能訓練を行っている。家族の状況に応じ外出や通院介助、緊急宿泊サービスを実施している。また、看護職員が毎日の様子と体調などの健康管理を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員と連絡をとり協力合っている。近くの交番には巡回を実施してもらっており、定期的に連絡を取っている。その他に文化施設などとは必要性に応じて協力、支援を働きかけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設のデイサービスと協力し合い、連携し支援している。意向や必要性に応じて協力、支援を働きかけている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは密に連絡を取り、協力している。意向や必要性に応じて協力、支援を働きかけている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までかかっていた医療機関へ継続してかかってもらっている。不可能な場合、納得が得られない場合などは、協力を受けている医療機関への受診を勧め、本人、家族の了解を得て受診を支援している。通院、定期健診等はできるだけ家族の協力をお願いしている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	理解のある医療機関に協力を仰ぎ、往診できる体制を整えてもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日看護職員が問診を行い健康管理、医療活用の支援をしている。夜間を含め、連絡の取れる限り看護職員に報告、相談、指示を受けている。連絡が取れない場合は、同事業部内の訪問看護ステーションと協定しており24時間の医療支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は定期的に病院や家族と連絡を取り、病状の把握に努めている。退院後の受け入れや今後の支援方法等について情報交換や相談を行なうこととしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人と家族の意向については、契約後に伺うことにしている。重度化や終末期の看取りに関する指針を家族に説明し、同意を得ている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に関するマニュアルを作成し、いつでも対応できる体制をとっている。また研修会への参加、内部研修などにより意識を高めている。 看護職員や事業部内の訪問看護ステーションと連携し検討、準備をしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者とは十分に話し合いを行い意向等を聞き、環境を整えるよう協力している。転居先が本人にとってなじみの場所となるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人に合わせた声かけを行い、さりげなく見守り対応している。記録などの個人情報は、それぞれのファイルに保管している。 各利用者の生活歴を把握し、プライドを損ねない、信頼を得られる対応を心がけている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	共に生活する中で、個々の思いや希望を理解し、それらを表現できるような声かけをしている。また、個々に合わせた説明をし、決定権を本人に委ね、その人らしく生活できるよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな生活の流れは職員が声かけするが、時間の配分などは、利用者本人に委ねている。外出や買物の希望を聞いて支援している。日中居室にこもりがち、横になりがち等、また機能訓練等健康に留意した誘導は、声かけ説明を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服の選択が正しくできない利用者には、本人の好みやTPOに合わせ職員と一緒に選んでいる。行きつけの美容院や床屋があれば引き続き利用してもらい、家族や職員が連れて行っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞きながら決め、毎日一緒に買物に行く。利用者の力に合わせ準備、片付けをし、また食事は、スタッフを含め全員で楽しく自然な会話をもてるようにしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、たばこを嗜好している利用者は現在いないが、本人の趣味嗜好を理解し、菓子などは一緒に買物に行っている。自分で管理できる場合は本人が管理し、持病があったり管理できない場合は預かって希望があったときや職員が聞いて支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンに合わせて、失禁のある利用者には、定められた時間にさりげなくトイレ誘導をしている。必要に応じてリハビリパンツや尿とりパットを使用している。下着の交換などは、トイレや居室で、他の利用者に気付かれないように行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけそれぞれの希望の曜日や時間に利用できるようにしている。個浴でゆっくり入浴する事ができ、職員がさりげない声かけと見守りを行ない、入浴時間・湯温も健康に留意しながら安心して楽しめるよう心がけている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	およその起床就寝時間はあるが、一人一人の生活習慣、リズムに任せている。夜間に気持ちよく眠れるように、日中は併設のデイサービスの利用やレク、家事、散歩や買物などの外出でなるべく活動的に過ごすようにしている。また体調、症状などに合わせて、居室で休息をとるなどしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族からの情報提供や、本人との会話の中から経験や楽しみを把握し、日常生活の中でできるだけ多くの力が発揮できるよう配慮している。その日の気分でドライブや散歩に出かけ、気晴らしを図っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能であると判断できる利用者には、家族の了承を得た上で本人が管理し、買物や外出時に自分で好きなものが買えるよう支援している。管理が難しい利用者は職員が管理し、一緒に買物などができるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日スーパーへ一緒に買物に行っている。利用者の要望を聞いたり、その日の会話の中で行き先を決め、散歩・ドライブも日常的に行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度はどんなものが食べたいか希望を聞いて、回転寿司、レストラン、焼肉店など外食に出かけている。馴染みの場所や行事を考慮して季節に応じた企画をし、花見、美術館、七夕祭りなどに出かけている。家族にも行事予定を渡して参加をよびかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望した場合は家族にも承諾をとり、対応をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できるよう、面会時間は定めていない。居室、リビングをその時の状況に応じて自由に利用してもらっている。職員や他の利用者を交えて会話をするなど、居心地よく過ごせるよう心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束用具は使用していない。また職員も、身体拘束となる行為を正しく理解している。研修への参加も呼びかけている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を入れてすぐ事務所があるため、防犯上施錠している。居室の鍵は利用者の意志にまかせ、外から施錠はしていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員一人一人が利用者の所在や様子を把握する様努め、また共有するようにしている。安全に気をつけながら、確認・見守りはさりげなく行うよう配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なものは、利用者の状態に応じて、居室のみの使用に限定したり、職員が管理し使用する際は職員がつくなどしている。特に馴染みの物や趣味嗜好に関わるものは使いたい時に使えるようにし、危険のないよう見守るなどの配慮をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態を把握し、また変化があった場合もすぐ対応できるよう申し送りなどして情報を共有している。研修などで学んだ知識や情報は、常に提案や工夫に役立て事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、また日頃から急変、事故時の対応を話し合っている。看護職員や訪問看護師と24時間連絡が取れる体制を整えており有事には指示を仰ぐことになっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施している。運営推進会議で自治会等に協力を呼びかけている。近隣の方たちも大変協力的である。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時にリスクについて説明を行い、変化があった時などはその都度家族に連絡し、本人に合った対応策を相談したり、提案をしたりしている。今の暮らしに変わりがないよう、状態の変化に合わせて提案している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝血圧などのバイタルチェックを行っている。入浴時には身体の状態をチェックし、変化が見られる場合は記録をし、管理者及び看護師に報告している。毎月1日には体重測定を行い記録している。体調の変化、異常は速やかに家族に報告し、職員間で共通の対応をするよう申し送りをしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとの処方内容を一覧にしており、目的や副作用を確認できる。用法、用量、誰が服薬介助をしたかは一覧表で確認できる。夜勤者が一覧表でチェックしながら、翌日の服薬分を一人一人分けて準備している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品や繊維質の食物を多く摂るように心がけている。運動のため散歩や買物、デイサービス、またちょっとしたことでもできる事はなるべく自分でするように促し日常的に身体を動かす機会を設けている。排泄の状況を把握し、本人の訴えを聞いたり、水分量をチェックし補給をこまめに促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、うがいや歯磨きの声かけをして実施している。それぞれの力に応じて支援している。うがいには除菌・消臭効果のある、スーパー次亜水を使用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、一人一人に合わせた量を提供して摂取量を記録している。体調不良などで食事量が少ないときは食べやすい形状にするなどの工夫をしている。水分も随時提供し、摂取量を記録している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザの予防接種を職員、利用者共に毎年受けている。居間や居室には、除菌効果のあるスーパー次亜水（弱酸性水）の噴霧器を設置して空気を清潔に保っている。食器や手すり、風呂場等もスーパー次亜水で拭いたり、かけたりして除菌を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所は清潔に保つよう努めている。調理器具や食器はスーパー次亜水をスプレーして除菌し、衛生管理に努めている。食材は買いだめせず、毎日買物に行き新鮮な物を使用している。毎晩食材の期限や鮮度などをチェックし、不適切なものは早期に処分している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは草花や木を多く配置している。建物は木のぬくもりが感じられる暖かみのあるデザインで来客者が気軽に入りやすい環境を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	下駄箱、棚、テーブル、床など全体的に木目調のものを使用しており、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。天窗やリビングの大きな窓によって自然な採光を確保している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う利用者で座れるよう、席を決めている。独りになれる共用空間はスペースの関係上とることができないが、居室に移動して独りで過ごしたり、他の利用者を招いて会話できるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスやイス、テーブルなどは本人が使用していた馴染みの物を持ち込んでいる。家族の写真を貼ったり、気に入ったものを飾るなど自由に居心地よく過ごせるように支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビング、居室ともスーパー次亜水を使用した加湿器により、除菌、消臭をしている。換気扇と窓を開けての換気を随時行っている。温度調節は利用者の状況に合わせて、昼夜適切な温度を保つよう配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを適切な場所、位置に配置し、安全に力を活かせるようにしている。キッチンが高齢者の体型に合わせて低めに設定してある。 必要に応じて、新たに手すりなどを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	特に置いてはいけないものなどを定めてはいるが、ふさわしくない物、誤解や不安を招きやすいものは置かないようにしている。混乱や失敗があっても騒いだり怒ったりせず、わかる力に応じて説明をしている。混乱、失敗の要因になったものは、場所を変えたり片付けたり工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	リビングからベランダに出られるようになっており、利用者が自分達で洗濯物を干せるようになっている。ベランダの一部は家庭菜園となっており、栽培を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所では、“その人らしく、安心した暮らし、なじみの暮らし”を理念に、利用者一人一人の個性を大切に、信頼関係を築きながら尊厳と自信のある暮らしが継続できるよう支援している。

買物には毎日地域の商店や大型スーパーに職員と一緒に出かけ、利用者の好みの物を提供している。月に一度、利用者とは何を食べたいか相談し外出にかけ、気分転換を図っている。

公園などで季節の花を楽しんだり、祭りなどのイベントに参加するなど、日常的に外出をしている。

毎年秋には、全事業部共同でジョイまつりを開催し、出店やフリーマーケット、ゲームなどを行い地域の方々とふれあっている。

家族との交流も積極的に行い、毎年初夏には家族交流の流しそうめんを実施している。面会時には良い時間が持てるよう、またいつまでも良い関係でいられるように互いを支援している。